

消防団機能向上のための 総合戦略



秋本 敏文

消防審議会会長代理 (財団法人 日本消防協会理事長)

阪神・淡路大震災のほぼ直後に消防庁長官に就任した私は、消防が重視され消防の役割が拡大する時代(「消防新時代」と仮称)、消防は総合安全管理人でなければならないといってきた。それは、緊急消防援助隊の存在に代表される高度な装備、技術をもった常備消防と要員動員力、即時対応力にすぐれ、地域の事情を熟知した消防団とがいわば車の両輪として機能することによって初めて実現するものである。消防団は単に常備消防の活動を補完するのみではなく、常備では対応しきれない消防団ならではの活動を展開し、常備と両々相まって消防がよりよく国民の安全に貢献することができる。

当然そのようなことから消防団の充実強化が進められてきた。消防庁ではいろいろなテーマで研究会を設け、さまざまな施策を積極的に実施している。しかし、団員数は年々減少し、もう90万人を割ってしまうのではないかと、消防団の活力が低下することはないかと憂慮されている。

そこで消防審議会では「消防団機能向上のための総合戦略検討小委員会」を設置して今後の方策を検討することとした。その視点、課題等を私の考え方によって述べてみたい。

まず、今回の検討視点は、消防団が国民生活によりよく貢献するためにその機能、存在価値を最大限発揮する方策を検討することである。そのためには、消防団が伝統的な基本機能である防火、消火はもとより、救急、救助、避難誘導、情報発信などを含む防災全般にわたり、さらには直接行動だけでなく地域の防災リーダー養成活動への参加など、幅広く、文言どおり地域防災の要としての活動をするのが課題になるのではないかと。また、消防団員は各世代にわたるさまざまな職業人であり、しかも地域貢献への熱意をもつ、強い連帯感で結ばれた人たちである。まさに、消防団は地域の人材宝庫であり、これからのそれぞれの地域、さらには我が国にとって貴重なコミュニティの中核的な集団である。同時に、消防団員としての生活は、地域に貢献するよろこびはもとより、職業、年令をこえた本当の仲間、友人ができるなどひとりの人間の人生としても貴重であるといわれている。

このような消防団の多面的な機能の発揮につながる個別のテーマについて、これまでもさまざまに研究され、施策が実施されているが、今回はそれらの成果を整理して活かしながら、新たな検討を加え、全体を総合戦略として再構成するとともに、可能なものは逐次実行に移していくことを目指さなければならない。この場合の基本的な戦略目標は、現状では消防団員の確保増強ということにしなければならぬ。当面この点に向けて多面的、総合的な戦術を展開することが必要であろうが、そこでは消防団の存在、その重要性を一般国民の皆さんにどのようにして知って頂くかがまず重要なテーマとなろう。

また、消防団については、その基本的なあり方にも関連する制度運用面、財政面などで検討すべき課題もあろう。厳しい財政状況からの制約もあり、直ちには実現困難なものも多いであろうが、決して簡単に諦めるのではなく、消防団のあり方に関する基本認識を少なくとも関係者が共有しつつ、初心に立ち戻って消防団が国民生活によりよく貢献するための総合的な方策を検討することが必要である。なかには、消防審議会としては将来の課題として位置付けざるを得ないものもあり得るが、それらについても関係者一同が粘り強く実現の努力を重ねることが必要となろう。

消防の動き



平成18年
10月号

No. 427

- 平成19年度消防庁重点施策
- 平成19年度消防庁予算概算
要求の概要